

議事概要

令和3年度 第1回 新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会

日 時： 令和3年8月26日（木） 午前10時～11時30分

場 所： 新潟市芸術創造村・国際青少年センター 4階 多目的スペース2

出席者： 新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会委員

池田委員、今井委員、枝並委員、栗田委員、小島委員、中谷委員、中村委員、
渡辺委員

事務局

地域教育推進課長ほか6名

傍聴者： なし

1 開会

2 地域教育推進課長あいさつ

3 委員自己紹介

4 委員長及び副委員長の選定

5 議事

(1) 令和3年度の事業実施概要について

(事務局) 案件概要説明

(小島委員) コミュニティ・スクールの動きについて、地域教育コーディネーターが不安を抱えている。今までどおり地域と学校パートナーシップ事業を行ってほしいと話してもらいたい。

(事務局) 研修会等でも伝えているが、引き続き連絡していく。

(渡辺委員) ボランティアや地域コミュニティ協議会としても、学校にかかわっているため、今までどおりという言葉聞いて安心した。

(2) 今後の取組について

(小島委員) 地域と学校パートナーシップ事業について、小学校では地域交流活動、中学校では地域貢献活動を主として行っている中で、高等学校はキャリア教育がメインになると思うが、その中で地域貢献では何ができるのか、地域教育推進課からアドバイスができるといいのではないかと。

(事務局) 例えば地域に対して、何か提言をして自分たちでできることがあれば取り組むという枠組みであれば、貢献ということになると考えている。情報を仕入れて、また伝えていく。

(今井委員) 地域貢献活動の、さらに一歩進んだ形で、高校生たちが、地域や学校、

いろいろな方とつながって、自分が社会に何か変化を起こすアクションを起こせることを感じられたら、自分の力で地域の中に入っていくということができる可能性がある。

(事務局) 学校づくり、地域づくりという土台の上に立って、地域貢献活動が展開されていくと、子どもたちにとってもより充実感を得られ、教員にとって地域連携の意義を実感する貴重な機会になると考えている。

(今井委員) 持続可能な事業システムの構築というところで、検証のあり方で、成功のポイントがどこにあったのかということ丁寧なやることで、持続可能な形が見えてくるのではないかと。

(事務局) 振り返りについては、地域教育コーディネーターが地域の方から吸い上げたものをフィードバックする形でやっている。いい所を見つけたら、そこからまたトライというのは大事な視点だと考える。

(池田委員) 学校支援ボランティアに対する研修会等があるのかどうか、研修会等で感染対策といった内容をやっているのか。市の情報はLINE登録をしているとスマートフォンのほうにダイレクトに来るという形になっており、学校事業の情報発信で活用していったらどうか。

(事務局) ボランティアへの研修は、紙面や地域教育コーディネーターを通しての、伝達兼講習という形になっている。情報発信はホームページでは告知しているが、いろいろなチャンネルを検討したい。

(3) 意見交換

(4) その他

【配布資料】

- ・資料1 新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会開催要綱
- ・資料2 令和3年度地域と学校パートナーシップ事業の概要
- ・資料3 「地域と学校パートナーシップ事業」4つの柱
- ・資料4 今後の事業推進に向けた取組と課題